



保坂 令子
鎌倉市議会議員
建設常任委員会



井上 三華子
鎌倉市議会議員
教育福祉常任委員会

神奈川ネットワーク運動・鎌倉 まちづくりレポート・ミニ版



＜号外＞発行 2025 年 4 月 5 日

発行責任：神奈川ネットワーク運動・鎌倉市議会議員団

〒247-0056 鎌倉市大船 3-3-15-104 TEL/FAX 0467-42-8636



来る市議選の各候補者の市役所移転への賛否は、移転反対の有権者にとっては投票の唯一の判断材料になる確率が高いですが、移転に賛成または「移転に決まったのならそれでよい」と考える有権者は、様々な観点で投票先を選ばれることでしょう。

そのため、市民の過半数が市役所移転に反対しているという状況はなくても、移転反対の有権者の票を確実に狙う選挙キャンペーンが既に展開されています。間違っているとまでは言えないにしても、極端に単純化された主張が強調されて争点のようになるのは、全ての有権者にとって決して望ましくはないことから、このレポートを＜号外＞としてお届けします。

「市役所移転にかかる整備費 310 億円」とは？ ～ 姿勢が問われる、選挙のための単純化

整備費「310 億円」は 大きい額を示すための合計

市役所移転反対の立場で

- ・新庁舎整備で 概算 170 億円
- ・庁舎移転後の御成の**現在地（跡地）**の整備で 140 億円
- ・合計で 310 億円

物価上昇でもっと膨らむ…と
310 億円という金額の大きさを
叫ぶ声が上がっています。

しかし、現在地で「市民の拠点
& 行政機能・防災機能」の施設整備
に取り組むのは、市役所が
深沢に移転した後で、**新庁舎整備**
とは時期がずれます。

◇時期がずれる 2 つの事業の経費
を合計して、「額が大きいからや
るべきでない」というのは理に
かないません。

◇市立小中学校 25 校の 40 年にわたる
建替え・長寿命化改修経費の
想定合計額を算出して「〇千
億円かかるからやらない」とは
なりません。それと同じ！

大事なのは建設にかかる経費が
市財政を圧迫しないこと

➔「**平準化※**」をはかる！

※一時期に多額の支出を集中させず、複数年度・長期間にわたって支出額を均(なら)すこと

問題となるのは、新庁舎や現在地の整備などの「建設的な事業」に一般財源から膨大な金額が支出され、市民生活を支える事業に単年度毎に予算を付けられなくなったり、財政状況の悪化が長期間続いたりすることです。そうならないよう、**庁舎整備基金を積立て、市債を活用し、償還（債務の返済）期間を長期に設定して財政負担を平準化**します。

◇新庁舎の基本計画では、施設整備全体の概算費は 170 億円で、うち約 150 億円の工事費・施設設計費は、充当率 75%の地方債の起債対象。市は、一般財源からの拠出となる残りの 25%（約 37.5 億円）は、庁舎等整備基金を取り崩して賄うとしています。同基金の積立額は 2025 年度当初予算段階で 33 億円。

「**庁舎整備優先＝福祉あつまわし**」って本当？

どの自治体においても、人件費・扶助費・公債費などの「義務的経費」が歳出の多くを占め、新規事業に取り組みづらいという状況があります。しかし、鎌倉市において、高齢者福祉や子ども・子育て支援などで有効な策が立案できずにあったとしても、「**新庁舎整備のために福祉にお金を回せない**」という構図は、予算を客観的に見て存在しません。

将来的にもそのような構図が出現しないように、「建設的な事業の支出の平準化」が図られます。それをチェックするのが議会の大切な役目でもあります。

バラマキ的ではなく、本当に支援を必要とする人に対する支援であり、人をエンパワーさせたり、次につなげる仕組みづくりになる福祉施策を考え出すのは難しいけれど、「これは！」という施策があるのなら、庁舎整備の経費は施策実施の妨げにはならないですよ…！



次世代につなぐという想いをこめ
鎌倉市全体のことを考えて
防災力の強化を目指し

新庁舎整備を進めませんか！

現庁舎の「長寿命化改修」は選択肢にならない

- ◇ 現庁舎は耐震指標 I_s 値が 0.62 しかありません。震度 5 の地震で倒壊又は崩壊する危険性は低く、人の命は助かるとされていても、建物の損傷は免れず、立入禁止となる恐れが大きいので、被災後に急務となる業務継続ができません。震度 6 や 7 の地震では更に危険度は高まります。
- ◇ 耐震壁やブレースを増やして I_s 値を 0.75 あるいは 0.9 にしても部分崩壊は起こり得ます。元々大きな課題である「庁舎の狭さ」は、耐震壁やブレースの設置でさらに狭くなり、平時の業務に支障をきたします。免震レトロフィットの手法で免震の建物にすれば現状よりは狭くはなりませんが、建物周りを大きく掘削するために地下埋蔵物に影響が及び、かつ工事費が高額です。高額な工事費を注ぎこんでも結局狭いまです。



鎌倉市役所 現庁舎

A (3 階): 建物内側に耐震ブレース
B (1 階): 建物外側に耐震ブレース

新庁舎では様々な可能性が広がる

- ◇ 深沢の移転予定地の柏尾川の洪水浸水と液状化リスクを強調する声が聞こえてきますが、土地区画整理事業の造成工事や雨水貯留施設の建造、庁舎を建てる際の基礎の構造により、十分なリスクマネジメントができます。
- ◇ 新築であれば、70 年、80 年もつ建物に設計することができます。耐震性はもちろん、省エネ性能を高めて脱炭素化をはかり、維持コストを抑えることができます。現庁舎とは異なり、来庁者のスペースを十分設けることができ、図書館・集会スペースも併設されます。
- ◇ 消防本部と一体的に整備され、大災害発生時の対応力が強化されます。現庁舎は市外からの救援・復旧支援を受け入れるスペースがありませんが、深沢では屋内外に広いスペースの確保が可能です。



新庁舎イメージ

(基本設計事業者「技術提案書」抜粋)

市庁舎現在地利活用基本計画より抜粋



御成の現在地を市民の拠点、市民の広場に！

- ◇ 市役所を深沢で整備することの大きなメリットは、御成町の現在地に、行政の手続き・相談機能と防災拠点機能を備えた、中央図書館を中心とする市民のための拠点施設を整備することができるということです。鎌倉駅に近い交通至便な現在地は、市民が集う創造的な場所、自治する市民の活動の拠点にふさわしい場所です。青少年の居場所も、ぜひ設けてほしいです。
- ◇ 施設は低層で建築面積を広くとって作られるので、広い屋上は津波避難場所として多人数を収容できます。建物内部もフェーズフリー（日常的な仕様が災害発生時には災害対応の仕様になる）で整備される計画です。
- ◇ 現庁舎を長寿命化改修して 20 年かそこら使い続けることは、何も生み出さないばかりか、移転後の跡地活用で鎌倉のまちと市民の生活に新たな価値がもたらされる可能性を閉ざすものです。特に 10 年後 20 年後に大人の仲間入りをする子どもたちにとって大きな損失です。市役所移転に反対する方たちは、そのことに想像力を働かせてほしいと思います。

どうなる？ 物価高騰

物価高騰が止まらない中、トランプ大統領の「関税措置」で世界経済・日本経済の行方はますます視界不良に！大規模な建設工事には非常に厳しい状況ですが、だからこそ市役所の位置を深沢に定める条例改正をできるだけ早く行うべきです。

今よりもっと悪くなる前に工事に着工するため、というよりは、経済・社会・建設業界の動向を見て、変化に柔軟に対応できる選択肢を広げる意味で、位置条例改正をしておく必要があります。